

# 仙台司教区

## 教区事務所だより



(第 56 号)  
昭和57年6月1日

### 司 祭 召 命 の 運 動 さ ら に 活 発 に

“ 仙台教区に司祭召命を願う祈り ” 出来る

仙台教区に司祭召命を願う祈り

いつくしみ深い神よ、わが仙台教区に司祭召命の恵みを豊かに与えて下さい。

教会の将来がゆだねられる青少年の心に聖霊をそそぎ、あなたの司祭召命に忠実にしたがう信仰心と勇気を与えて下さい。

すべての信者家庭が、司祭召命のよき苗床となるよう祝福して下さい。私たちが

司祭職への理解を深め、司祭召命に寛大に協力するよう心を開かせて下さい。わが仙台教区に一日も早く、一人でも多く

司祭職をのぞむ青少年が生まれますように、永遠の司祭である主イエズス・キリストによつて。

アーメン

この祈りは、仙台教区の司祭召命促進のため全教区でとねる祈りが必要という、司牧評議会の決定にしたがい作られたものです。

多くの機会に利用して祈りましょう。

● 司祭召命は教会に生命を与える

司祭が不足してきたからという理由で、司祭召命促進の運動があるのではありません。

カトリック教会の存続には、司教とそれを助

ける司祭が本質的に必要なのです。約二千年

このかた、カトリック教会は絶えず司祭を生

み育てて発展してきました。召命は、「教会

の活力の見える印」といわれ、召命によつて

教会はまた生命を得るのです。

● だれもがそれぞれの場で協力

司祭召命は、青少年とその両親だけの問題ではありません。すべての信者が司祭召命の

責任をもっています。老若男女を問わず、直

接に、間接に協力できます。その内もつとも

力をもつものは祈りです。「刈り入れは多い

が働く人は少ない。働く人を与えて下さるよ

う、刈り入れの主祈りなさい」と主イエズ

スは教えました。毎日、いろいろな機会に、

一人でも、また一緒に祈りましょう。ただ形式的な祈りにとどめず、具体的な実践の第一歩にしましょう。

● 司祭召命は信仰の結実

司祭召命は究極のところ、青少年の心に司祭職へののぞみを育ててゆくことです。司祭

職がいかに困難をとめない、人間的にはワリ

の合わないものに見えようと、神は、神への

奉仕と人びとの救いに働く立派な司祭をも

とめ、青少年に呼びかけています。そして司

祭をはじめ両親やすべての信者は、そのため

に協力するのです。教会の中で司祭職が正し

く理解され、ミサ聖祭や秘跡、説教の重要さ

が司祭職の尊厳と結びつくなら、そしてその

雰囲気や教会や家庭、そして信者の心に満ち

ているなら、司祭召命は必ず与えられるにち

がいません。

司教様の日程

(5月12日現在)

5月31日～6月5日 司教会議(東京)

6月7日 教区司祭団役員会

8日 藤ホーム竣工式(青森)

13日 松木町教会堅信式(福島)

14日～16日 神学校常任委員会(東京)

20日 会津若松教会堅信式

21日～23日 仙台司教区司祭大会(仙台)

27日 聖ペトロ聖パウロの祭日 (元寺小路教会)

'82 教区目標

家庭から社会にキリストの平和を!



仙台教区司祭大会 Ⅱ 6月21～23日

「キリストの平和と現代社会」をテーマに

年頭の司教書簡で、「家庭から社会にキリストの平和を」というテーマが、三年間の司牧目標として示された。仙台教区の各地区、各小教区教会ではこれからの三年間、目標達成のための活動がなされることになる。

仙台教区の司祭大会（教区、修道会、宣教会の全司祭による）は隔年ごとにひらかれているが、今回はとくに司牧目標と関連づけて、「キリストの平和と現代社会」を取り上げ、司祭同士の勉強の場にする事とした。大会は6月21日から23日までの二泊三日間、仙台

6月29日

仙台教区司教座教会献堂記念日

聖ペトロ・パウロ使徒の祭日に

仙台教区の司教座聖堂（元寺小路教会）の献堂記念日は、6月29日聖ペトロ・パウロ使徒の祝日である。元寺小路教会が司教座聖堂になったのは昭和11年、戦災で焼失した教会が戦後再建され献堂されたのは、昭和27年の9月23日、30年前のことであった。

来る6月29日には佐藤千敬司教を中心に共同ミサが献げられ、献堂の記念が盛大に祝われる予定である。各小教区でも、この日、心を合わせて私達のカテドラルのために祈ろう。

市でひらかれる。

「キリストの平和」とはなにか、ということの勉強が、司牧目標達成のカギとも思えるので、司祭同士が発表し合い、意見を述べ合つての勉強の成果は、司牧目標推進の大きな力になるはず。なお大会では、カトリック正義と平和協議会の行宗一（ゆきむね・はじめ）氏が平和について基調講演を行い、そのあとで各会が担当するテーマにしたがつて発表と意見交換が行われる予定になっている。

特老「曉星園」に御下賜金  
すぐれた業績認められる

仙台教区の社会福祉法人カトリック児童福祉会が経営する、特別養護老人ホーム曉星園（仙台市安養寺・園長本間重治神父）は、このたび昭和57年度優良民間社会福祉施設として、天皇陛下から御下賜金をいただいた。

御下賜金の伝達式は5月7日午前10時半から宮城県庁知事室で行われ、同法人理事長・佐藤千敬司教と本間園長が出席、山本壮一郎知事から御下賜金と表彰状を受けた。今年度の御下賜金は県内では曉星園だけで、創設六年目にしてすぐれた曉星園の仕事ぶりが教会外の社会にも認められたもの。現在同園には五十人の寝たきり老人が入居、あたたかい養護をうけて過ごしている。

日本司教団では6月6日の国連軍縮特別総会の開始日を、「核兵器禁止祈禱の日」とすることにきめた（カトリック新聞2月14日号）。仙台教区においても全国の各教会に

△6月6日▽核兵器禁止祈禱の日



全教区をあげて国連軍縮特別総会のために祈ろう

同調して同日（三位一体の主日）核兵器禁止を成功させるための祈りをささげることにしてしよう。具体的な実施については各教会に委ねられるが、ミサ中の共同祈願を利用する

すでに各教会には核兵器禁止と軍縮などに関する趣意書が送られ、署名運動が行われているが、そのしめくくりとしても6月6日を平和をねがう祈りの日としよう。





## 全国朝禱会

## 郡山教会が協力

「プロテスタント信者も参加してミサ」



去る5月14日から16日までの三日間、郡山市で第21回全国朝禱会が催され、地元郡山教会や全国から多数のカトリック信者も参加した。朝禱会はプロテスタントが始めたものだが、現在はいくつかのカトリック教会でも行われ、祈りと共にエキクメニカルな効果をもあけている。

大会にはエキクメニズム委員長・伊藤庄治郎新潟司教がメッセージを寄せ、司教総代理・三浦平三神父が司式したミサには約50人のプロテスタント信者も参加して祈った。

## 仙台教区修道女連盟

## 研修会 6月27日

テーマ「現代社会の修道者」

毎年開かれていた仙台教区修道女連盟の今年の研修会は、6月27日(日)午前9時30分から仙台白百合学園で行われる。講師は毎日新聞編集委員で日本カトリックジャーナリストクラブ会長の徳岡孝夫氏。「現代社会と修道者」というテーマで、二回の講演が予定されている。

## しょうしやな学舎

聖ウルスラ学院



家政専門学校落成へ仙台V

仙台の聖ウルスラ学院家政専門学校(校長武藤要子)は、去る4月20日午前10時から新

校舎の落成式を行った。同校は聖ウルスラ修道会が戦後間もない仙台の地に始めた最初の事業で、長らく家庭学校の名で親しまれていたが、専修学校制度が出来た際に家政専門学校と名称も改め、社会の中のパン種となる現代女性の教育を行っている。

このたび中・高等学校の校舎増築にともない、昔なつかしい伊達屋敷は保存移築のため仙台市により解体されるなど、大幅な建築計画の一環として家政専門学校の校舎が建築された。落成式は聖ウルスラ会一本杉修道院聖堂で行われ、仙台教区長佐藤千敬司教をはじめ、来賓、教職員、研究科生など多数が出席、校舎落成を祝った。式後、佐藤司教が感謝のミサをささげ、無事故で工事が終わった事を感謝した。

新校舎は鉄筋コンクリート三階建て延べ面

## おしらせ

< 仙台・元寺小路教会青年会から >

- ◎ アフリカ難民救済三留理男写真展  
日時・6月11日(金)から6月16日(水)  
午前10時から18時30分まで  
場所・仙台ジャスコ6階"市民のフロア"  
入場無料
- ◎ アフリカ難民救済のための街頭募金  
日時・6月20日(日)12時から17時30分  
場所・仙台・中央通り及び一番町  
※ あなたも一緒に街頭に立つてみませんか。  
街頭に立つて下さる方大募集。
- ◎ 三留理男氏講演会  
日時・6月22日(火) 開場17時30分  
開演18時  
場所・仙台市戦災復興記念館記念ホール  
※ 入場無料。ただし入場整理券を発行中。  
希望する方は下記にお問い合わせ下さい。  
仙台・カトリック元寺小路教会青年会  
TEL (22) 5507
- ◎ アフリカ難民寄付金付トレーナー  
販売の報告とお礼  
2月からすすめてきたアフリカ難民救済金付きトレーナーの販売も、仙台教区内を始め全国の皆様の協力を得て500枚を越える申し込みを受けることができました。いろいろな事情で発送が遅れた事をお詫び致します。トレーナーの申し込みは締め切りましたが、来る6月22日に行われる三留理男氏(写真家)講演会(前述)で若干販売しますので、皆様の御来場と御協力を、お願い致します。上記にお知らせの中で不明な点は、元寺小路教会・青年会までお問い合わせ下さい。

積九百二十平方メートル、総工費一億八千万円、昨年9月から工事が進められ去る2月に完成した。若い女性の学び舎にふさわしいしやれたふんいきの建物である。

## 第十一回宮城県信徒大会

七月に開催



年に一度、宮城県内全教会の信徒が、子供から大人までが一堂に集い、同じ信仰を持つ喜びを分かち合う信徒大会、今年は7月4日(日)午前10時から仙台・白百合学園で行われる。テーマは昨年に引き続いて「私達の福音宣教」。県内の各教会から、できるだけ多くの信徒が参加するよう呼びかけている。



## 新学期をむかえた

### 教会学校

各地でリーダー研修会開く

教区内各教会の教会学校が新学期を迎え、それに伴いリーダーの研修会が各地で行われている。最近では高校生から主婦、教師、父親などリーダーの層も幅広く、勉強会をしながら教会学校のリーダーとして励んでいる。

(福島) グリンベイプラン研究会

福島の野田町教会では3年前から、十二人の信徒が小学生から高校生までの信者子弟の信仰教育を担当、教材として使用している京都カトリック教理センター発行の「現代つ子の信仰教育」(教会学校教案集)の利用法について、同センターのシスター野元品子を講師に迎え研究会を行った。教師自身が公教要理を習った頃からくると、時代感覚も子どもの見方もかなり変化しているので、信仰教育を担当するお父さんお母さん方がもう一度新しい感覚で自分の信仰の見直しをする良い機会となった。なお当日は野田町の外に松木町、二本松、宮城県白石からも参加者があった。

(宮城) 仙台教会学校リーダー例会

仙台では毎月一回土曜の午後仙台近郊の教会のリーダーが参加して例会を行っている。去る3月22日にリーダーの歓送迎会を兼ねて例会を行った。この日は一本杉教会のラシャベル神父による講話「子供は親の毛穴で真似ぶ」という味のある話。教える者、親の後ろ姿が

## 韓国教会に学ぶ

元寺小路教会・佐井満雄

この春、東京真生会館「日本とアジアを考える会」のアジア体験旅行・韓国コースに参加。主に韓国の教会の活動等を広く見て回って来たわけだが、実に強い衝激を受け、大きい問題をかかえて帰ってきた。

韓国と日本における諸問題をここに取り上げて語るには、紙数に制限があるので、韓国の教会に学ぶべき点を述べることにする。

両国間には政治、経済等社会条件の違いがあつて簡単に比較は出来ない。しかし社会にしっかりと根づいている韓国の教会をこの目で見た時、教会というものが社会に何らかの義務、責任、を果たす役割があるとしたならば、この点で日本のカトリック教会は全くないといわれないが、欠けているといわざるをえない。つまり、韓国のカトリック教会は社会に直結して広く人々にアピールしているだけでなく、

いかに子供に影響するか痛感させられた。

4月の例会は4月24日、この日は福島野田町教会の研究会を指導する京都カトリック教理センターのシスター野元に立ち寄っていた。現代つ子の「信仰教育」の精神について話していただいた。

(岩手) 第14回岩手県教会学校教師会

今年も岩手県教会学校教師会が4月28・29の両日、岩手カトリック・センターにおいて、

実際に社会問題に取り組み、社会を改善している。換言すれば、社会に向けて確かにキリストの福音を述べ伝えていく。彼らは一人一人がキリスト者であることと、それぞれの社会における責任を強く自覚し、実にキリストの教えを現実のものに具体化し再現している。

KOSA(韓国カトリック学生連盟)では、経済的な貧困のため学校に行けない子供達を対象にして、夜間学校の自主運営を行っていたし、労働問題におけるJOC(カトリック青年労働者連盟)の活動もしいたげられる労働者の救いとなっている。また原州(ウォンジュ)教区の社会開発委員会による協同生存運動など、どれを取り上げても、いま韓国の教会は社会に必要とされており、おのずとそれは大衆にとつて魅力であり引きつけられずにはいられない。日本人としてもこんな教会に魅力を感じても何の不思議があるだろうか。日本の教会も社会にあつて本当に魅力あるものとしていかなければならない、とみんなが自覚していかなければ!!。

「平和をもたらす人は幸い」をテーマにベトナム会ツィゲル管区長の指導で行われた。

三回にわたる講話は教区目標にちなみ本当の平和とは何かをいろいろな面から追求、教皇様の平和アピールにおける日本の役割にも触れ、幅広い内容であった。参加者一同、今こそ積極的にキリストの平和と第二次世界大戦において日本が受けた体験をしつかり子ども達に伝えていかなければ、と痛感した。



カテドラルでの

## 聖金曜日の典礼に参加して

元寺小路教会 白石 裕

元寺小路教会の笹気神父様から聖金曜日の典礼の聖書朗読を依頼され、戸惑いながらも引き受けたのは以前読んだ本を思い出したからでもあります。それは、「ワシントンの街角から」という本で、その中にワシントンの聖マタイ大聖堂の聖金曜日の典礼について書かれた一節があります。それによれば、聖マタイ大聖堂ではキリストの受難劇を再現し、人間的なキリストの苦痛を参加者に強く印象づけるようです。

元寺小路教会の聖週間の典礼のため指導に來られた国井神父様にお会いし典礼における朗読のあり方について「朗読者の感動を参加者と頷かち持つ」という指針をいただき、前述の本と併せて考えて、聖週間の典礼について良い勉強をすることができました。

聖金曜日のキリストの捕われからピラトの裁判、十字架上の御死去に至るまでの朗読は、キリストの贖罪の本質に関する部分です。もし我々がその場に居合わせたら、はたしてどのように振舞うでしょうか。キリストの神性を体験していたベトロでさえ、キリストを否定しましたが、ピラトの権力をもつしても押えられなかったあの人民裁判の雰囲気の中で、もし自分ならベトロと違った行動が取れたでしょうか。実際に聖書を朗読しながら群衆に埋没するであろう自分を感じないわ



## 読者のページ



けにはゆきませんでした。それにつけても、「報われることのなかったキリストへの信頼」を固く守り通したマリヤさまの強さには改めて驚きを感じさせられました。

朗読者の一人として自分の受けた感動を、どれ程表現できたかは分かりませんが今迄より多少とも聖書を深く読んだ気がしたし、このような機会が与えられた事を感謝しています。

## 雑感

大湊教会 一読者

もうずつと以前から、私はキリスト信者と云われる事に何となく気恥ずかし、抵抗さえ感じていたのです。なぜなら、一般にキリスト信者について抱いているイメージが、その信仰故に何事にも動ぜず、救われている人、立派な人と思われがちで、そのところが私自身と大いに異なるのです。この世は決して美しくも公平でもなく、むしろ惨たんたるものと思います。その中で私は常に右往左往しています。

神はどのあたりに感じられるのか、この幼稚で素朴な疑問を私は長いこと抱いていました。私にとって神は頭上の少し後方においでになり、時々かがみ込んで見ておられるような気がしていました。ところがある時こんな文章に出会いました。

『「シスターはどのあたりに神を感じますか」と私の問いに、につこりしたシスターは、「私の出会っている方達の中に神を見ます」。何とやさしさに満ちた強いことばでしょう。私もそのように生きたいと思つたことでした。

春



先日、旅の途中、老人ホームに住む、母の知人を訪ねた。足を骨折してベッドに横たわっていた。もう二度と歩けないという。かつて教会のまかない婦として働き、明るく元氣であつた彼女は、年齢のせいか小さく、やせて見えた。

笑顔に迎えられ、あいさつを交わした。寮母さんが、「おばあちゃん、どんなかわかりますか」と問うと、「わからないの」という返事であつた。驚いた。母の名前と七年前に母と共に訪ねたことを告げると、笑顔が消え、顔を急にくずして「夢のようだ、夢のようだね」のことはを繰り返した。教会のこと、町の友人・知人のことを語るうちにいつしかその目頭が濡れていた。

近くまで来たのでほんのちよつと、のおもいで立ち寄つただけなのに……田村隆一さんの「詩人の旅」によると、人の力、人のなさけがわかるところにひとり旅の大きな魅力があるという。

人生というひとり旅を長い間歩んで来たおばあちゃんは、私に人の力、人のなさけを大いに考えさせてくれた。かんしゃ。

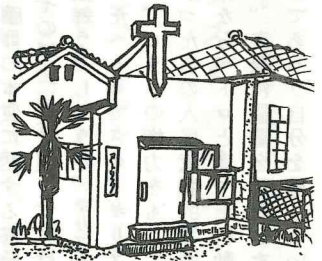
(狼河原)



# 白河教会

(20)

福島・白河教会



白河教会は、教区の最南端に位置し、浦和教区との接点の栃木県境までは、約8キロ、那須のトラピスト修道院や慈生会までは12キロ、西に秀峰那須連峰を仰ぎ、北東に阿武隈川の源流が流れる人口四万三千人のさわやかな高原都市にあります。

また6月23日からは、待望の東北新幹線が開通、特急「あおば」の停車する新白河駅は白河市の西端に位置しています。その奥座敷には秘境甲子温泉があります。

さて、白河教会の歴史は、古く明治45年にパリ外国宣教会のダリベル神父様によつて教会の建立が立案され、大正3年に完成しました。しかし残念なことに当時の信徒に關係のある方々が全くいないのです。それに比較して白河聖公会(聖堂は、このたび市の重要文化財に指定)の信徒は三代、四代の旧家が多く、寂しい思いをしています。その後大正15年まで、ダリベル神父様が司牧、それ以後は郡山教会の巡回教会となりました。

戦前は、ドミニコ会のリード、ラボルト、レンゼット各神父様が歴任、戦時中は外国人

司祭はすべて抑留の憂き目にあつたため、児山六七男神父様が郡山から巡回していたという事です。また、レミユ司教様がおられたこともあつたそうです。

戦後、昭和24年に再びドミニコ会のラマール神父様が着任、26年には木造建築の教会が老朽化したため、手狭になつて移転した隣りの東北電力の事務所跡を購入、聖堂に改装して使用。この聖堂は大正初期の洋風土蔵造りの建築物として由緒あるもので、敷地内に市役所が白河電灯発生の地の標識を建立しました。

ドミニコ会は更に昭和28年には信徒念願の墓地を開き、33年には白河カトリック幼稚園が旧教会敷地に建設されました。その後ラマール神父様から、バレ、ヴェイエット神父様と代わり、昭和50年に白河教会の司牧はグアダルベ宣教会に移管されました。

昭和56年には司祭館も新築され、福島県南地方の布教の基地としての整備も一応整つたといえるでしょう。しかし、白河小教区内は一市七町八か村にも及び、非常に広範囲であり、その意味からも矢吹町に新教会設立の運動が行われています。

現在の主任司祭ガビノ・ブランカス神父様は39歳、ちよつと見ると私達日本人と同じ皮膚、髪、眼の色で身長5尺3寸、体重17貫、とても茶目つ気があり誰とでもすぐ友達になる特技があります。

助任のホセ・ロベス神父様も39歳、長身、栗色の髪的美青年、現在市立中学校の二年生として日本語の勉強に余念がありません。ま

た音楽の専門家で、ピアノ、エレクトーン、ギターと何でもこなし、市民合唱団の一員でもあります。

白河教会は信徒数百六十人。信徒会、婦人会をはじめ、土曜学校、日曜学校、矢吹きホープスクール、矢吹教会建設運動、そして須賀川と共同の共助会活動などがあります。グループ毎の家庭集会は毎週火曜日持ちまわりで聖書研究を中心に実施しています。これらの活動の陰には、三年前に白河に修道院を設立したイエズス孝女会のシスター方の活躍も忘れることはできません。また今年の「福島県カトリックのつどい」は、白河教会が担当に当たっているため、その準備に教会が一丸となつて当たっています。

仙台教区とはいえ、むしろ東京に近い白河は、子供たちも東京方面に進学、就職する傾向が強く、家族の移動も激しい等、ある意味での過疎地と考えられます。しかし一家族が転出すると必ず新しい家族が移り住むというように神の恵み豊かなはからいを、常日ごろ感じています。

## 原稿募集

◎ 小教区のニュース。おしらせ。案内等。

◎ 随想・詩・俳句・短歌・子どもの作品等。

◎ 投稿締切日。毎月10日。御協力下さい。

.....

仙台司教区事務所だより第56号

昭和57年6月1日発行

発行所 仙台司教区事務所

〒980 仙台市本町一丁目2番12号

TEL 0222 22 7371